小　学　校

平成 31 年度(2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

## 家　庭

東京都教育委員会

# 目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由　…………………………………1

Ⅱ　研究の仮説　……………………………………2

Ⅲ　研究の視点　……………………………………2

　１　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点
　２　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

Ⅳ　引用及び参考文献　……………………………………3

Ⅴ　研究構想図　……………………………………4

Ⅵ　研究内容　……………………………………5

　１　検証授業①

　２　検証授業②

Ⅶ　研究の成果　……………………………………15

Ⅷ　研究の課題　……………………………………16

**研究主題**

# 日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童の育成

## Ⅰ　研究主題設定の理由

平成 29 年７月に小学校学習指導要領が改訂された。多様な社会背景を踏まえ、学校教育においては、子供たちが様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められていると示されている。

家庭科教育においては、現状の課題として「家庭生活や社会環境の変化による家庭や地域の教育機能の低下」、「家族の一員として協力することへの関心の低さ」、「家族や地域の人々との関わり及び家庭での実践や社会参画の不十分さ」などが挙げられており、児童の主体性や家庭での実践力等の育成が求められている。本研究においても、日々の実践における児童の実態を共有した際に、家庭や地域の教育力の向上や家族の一員としての児童の社会参画を促す必要性を強く感じさせられる事例が挙げられた。

これらの課題を改善するために家庭科では、教科の目標が「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成すること」と小学校学習指導要領（平成 29 年３月）（以下、「小学校学習指導要領」と表記。）に示され、育成するべき資質・能力が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されている。これらの資質・能力は、偏りなく実現できるように、実生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、その三つの柱を相互に関連させることにより、教科全体の資質・能力を育成することが求められている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することも重要な視点の一つである。

上記の趣旨を踏まえた家庭科の先行研究として、東京都教育研究員における実践研究が挙げられる。平成 29・30 年度の研究では「基礎的・基本的な事実的知識及び概念的知識の習得」、「生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決する力の育成」及び「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力の育成」を目指して、問題解決的な学習の設定、概念的な知識の明確化、対話的な場の意図的な設定等の手だてについて成果が報告されている。これらの各研究も小学校学習指導要領の改訂の内容を受けて取り組んでおり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一つとして生かすことができる。今後、題材の学習計画における振り返りの場の設定や、深い学びについての研究を行うことで家庭科の授業が更に充実すると考える。

学習計画における振り返りの場の設定については、「小学校学習指導要領解説家庭編（平成 29 年７月）」（以下、「小学校学習指導要領解説家庭編」と表記。）において、「生活の課題発見→解決方法の検討と計画→課題解決に向けた実践活動→実践活動の評価・改善→家庭・地域での実践」と学習過程の参考例が示されており、特に、評価・改善に関しては、「課題の解

決に向けて、実践した結果を振り返り、考えたことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて、改善方法を考える。」とある。また、深い学びとは、「児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びである。」とあり、一連の学習過程の中で実践活動の評価・改善の場の設定が重要視されていることが分かる。

これらを鑑み、「評価・改善」に焦点を当てた研究が、深い学びにつながり、現在の家庭科教育の課題を解決するための糸口になるのではないかと考えた。題材における学習過程を「課題を設定・把握→計画→実践→評価・改善」という一連の学習活動を重視した問題解決的な学習を基本とすることとし、各学習活動の場で習得した内容を意識して、評価・改善の場面を充実させれば、先に課題として挙げられていた児童の主体性や、家庭において実践していく力を高めていくことができるのではないかと捉えたからである。具体的には、学習過程内において学んだ成果を、自己評価や集団内での評価等の活動を通し、計画についての改善策を考え、次の課題につなげていくという課題の連続性を意識させる。また、集団内で評価し合う等の対話的学びを設定することで、他者の生活の営みに係る見方・考え方に触れる機会を意図的に設ける。これは、児童相互の考えの幅を広げることに有効であり、深い学びの実現につながる。そして、よりよい方法を判断・決定するための選択肢を増やすことにつながり、既習の知識及び技能の定着度や家庭での経験の有無、ライフスタイルによる個人差を縮めることができ、児童の実践に向けた主体性を育むことができるのではないかと考えた。この評価・改善に重点をおいた学習過程は、児童自らが学習する内容の調整を図ることができるとともに、児童が自ら学習の目標をもち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学び方に関する自己調整も意図している。

以上のことから、本研究では、児童が日常生活の問題について評価・改善を繰り返し、学んだことを実生活に生かせるような資質・能力を身に付けることをねらいとし、研究主題を「日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童の育成」と設定した。

## Ⅱ　研究の仮説

問題解決的な学習において、評価・改善に重点を置いた学習を計画すれば、日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童が育成できるであろう。

## Ⅲ　研究の視点

### １　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

(1)　身に付けさせたい知識及び技能の明確化

題材において、授業のねらいを基に、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識及び技能を明確にし、それら基礎的・基本的な知識及び技能がどのようにつながり、総合的にどのような概念的理解へと昇華していくのかを事前に指導者が計画する。基礎的・基本的な知識及び技能と概念的理解については、題材の指導計画に示すようにする。これは、

１単位時間における基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、題材における汎用的な知識及び技能の習得段階を把握することに有効である。汎用的な知識及び技能について児童が身に付けることは、学んだ内容を基に、児童を取り巻く個々の環境に合わせて活用できるようにするためである。

(2)　生活の営みに係る見方・考え方を働かせる場の設定

日常生活の中から見いだした問題を解決する場面では、指導者が学習課題や発問を工夫することにより、児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせて解決方法を考えられるようにする。このことは、児童が自己の生活に関する出来事を改めて考察したり、比較したりすることで、生活の営みに係る見方・考え方の視点をもつことができ、改めて自分の身の回りを振り返った際に、今までは問題として見いだしていなかった問題を見付けることにつながる。

**２　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点**

(1)　評価・改善の工夫

問題解決的な学習の学習過程内において評価・改善を重視する。これは、実践活動の評価で終わるのではなく、児童が、次の実践に向けて改善すべきことを見付け、新しい知識や技能の習得の必要性を自ら感じ、自己の課題に合った解決方法を主体的に考え実践できるようにする。このことで、各家庭の状況に合わせてそれぞれが実践を計画し、具現化していく力が育成できると考えた。

(2)　児童が調整を図りながら学習を進めていく手だての工夫

児童が設定した課題を解決していく中で、考えにずれが生じたり、行き詰まってしまったりすることも出てくる。また、自分の問題解決の過程を客観視できない場合も考えられる。その際に児童が、他者との対話を通して、多様的かつ多角的な考えを基に計画を見直したり、新たな解決方法を考えたり、学び方に関して自己調整を図れるようにする。自己調整を繰り返すことで、どの題材においても主体的に学びを調整していく力の育成も見据えている。

## Ⅳ　引用及び参考文献


・　幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中央教育審議会 平成 28 年 12 月 21 日）
・　小学校学習指導要領（文部科学省 平成 20 年３月）
・　小学校学習指導要領（文部科学省 平成 29 年３月）
・　小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省 平成 29 年７月）
・　小学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省 平成 29 年７月）
・　教育研究員報告書 小学校・家庭（東京都教育委員会 平成 29 年３月、平成 30 年３月）
・　令和元年度　小学校及び中学校各教科等担当指導主事連絡協議会（小学校家庭科）説明資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）

## Ⅴ　研究構想図

**社会的背景・社会の要請**

・少子高齢化
・経済・社会のグローバル化
・家庭・地域の教育力の低下
・家族・家庭生活の多様化
⇒持続可能な社会の創り手となる子供の育成
⇒社会の急激な変化に主体的に対応すること

**家庭科における児童の実態**

◎学習への関心が高い
◎普段の生活や社会に出てからの有用感が高い

●家族の一員として協力することへの関心を高める必要性
●家庭実践や地域参画意識や経験の涵養

**東京都教育研究員による**
**これまでの先行研究**

◎基礎的・基本的な事実的知識及び概念的知識の習得
◎生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、解決する力の育成
◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、判断し、よりよい方法を決定する力の育成
●意図的・計画的な題材計画の必要性
●深い学びとのつながり

**学習指導要領 小学校家庭科の目標**

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

(2)　日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。

(3)　家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

**学習指導要領における**
**学習過程の例示**

生活の課題発見
→解決方法の検討と計画
→課題解決に向けた実践活動
→実践活動・改善
→家庭・地域での実践

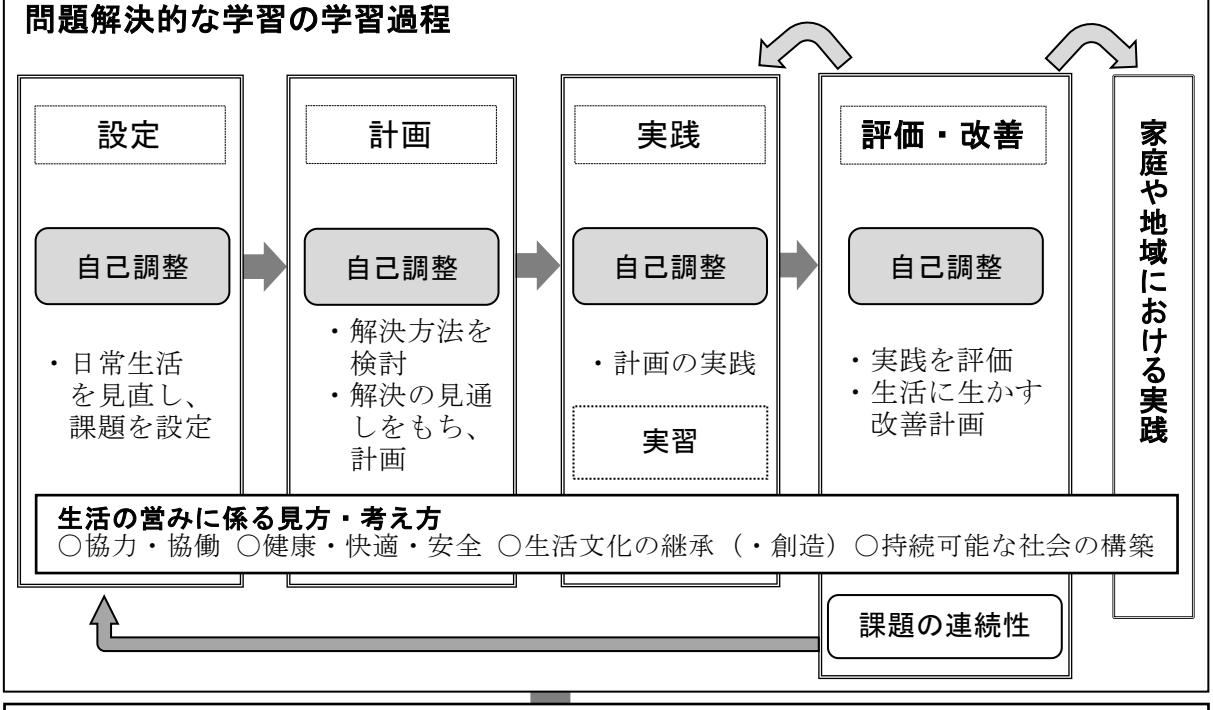
**令和元年度**
**教育研究員共通研究テーマ**
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

**研究主題**
**日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童の育成**

**研究仮説**

問題解決的な学習において、評価・改善に重点を置いた学習を計画すれば、日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童が育成できるであろう。

**問題解決的な学習の学習過程**




**研究の視点**

**1　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点**
**2　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点**

## Ⅵ　研究内容

### １　検証授業①

(1)　題材名　第６学年「まかせてね　今日の食事」

(2)　指導内容

内容Ｂ(1)　食事の役割　イ　楽しく食べるための食事の仕方の工夫

内容Ｂ(2)　調理の基礎　イ　おいしく食べるための調理計画及び調理の仕方の工夫

内容Ｂ(3)　栄養を考えた食事　ア　(ｳ) 献立を構成する要素、献立作成の方法

イ　１食分の献立の工夫

(3)　題材の目標

【内容Ｂ(1)】楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫する。

(生活を創意工夫する能力)

【内容Ｂ(2)】おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫する。

(生活を創意工夫する能力)

【内容Ｂ(3)】献立を構成する要素が分かり、１食分の献立作成の方法について理解する。

(家庭生活についての知識・理解)

１食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫する。

(生活を創意工夫する能力)

(4)　題材の評価規準

| | ア　家庭生活への関心・意欲・態度 | イ　生活を創意工夫する能力 | ウ　生活の技能 | エ　家庭生活についての知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| B (1) | ①日常の生活の中で、人と共に楽しく食事しようとしている。 | ①楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、自分なりに工夫している。 | | ①栄養のバランスを考えた食事について理解している。 |
| B (2) | ②おいしく食べるために調理計画を考え、調理しようとしている。 | ②おいしく食べるために調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 | ①栄養のバランスを考えた主菜の調理ができる。 | ②効率よく作業するための調理計画と調理の仕方を理解している。 |
| B (3) | ③献立を構成する要素について関心をもち、献立づくりに取り組んでいる。 | ③栄養のバランスを考え、１食分の献立を考え、自分なりに工夫している。 | | ③１食分の献立作成の方法について理解している。<br>④栄養のバランスを考えた食事について理解している。 |

(5)　題材の指導計画（全 11 時間）

| 時 | | ○児童の学習活動<br>・予想される児童の反応 | ○基礎的・基本的知識及び技能<br>□概念的な理解 | 評価規準 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 設定 | ○食生活の課題を考える。<br>・朝食を食べていない児童は１％。<br>・朝食で食べているものに偏りがある。<br>○学習課題を知る。 | | ア①<br>エ④ |
| | | **学習課題：よりより生活をするには、どのような食事の計画が必要か。** | | |
| | 計画 | ○学習計画を立てる。<br>・献立や買い物の計画を調べたい。<br>○解決方法を考える。<br>・家の人に聞いてみる。 | | |

| 時 | | ○児童の学習活動<br>・予想される児童の反応 | ○基礎的・基本的知識及び技能<br>□概念的な理解 | 評価<br>規準 |
|---|---|---|---|---|
| | 計画 | | | |
| | | 家庭における調査活動（工夫とその理由について） | | |
| 2 | | ○調べたことを発表する。<br>・野菜を多めにしている。<br>・旬のものを使うようにしている。<br>・薄味にしている。<br>○給食の献立から構成要素を考える。<br>・一汁三菜を意識している。<br>・米を主食とし、おかずとのバランスを考えている。（伝統的な食事）<br>・主菜副菜が揃っている。<br>○構成要素についてまとめる。<br>・バランスのよい献立にはいくつかの構成要素がある。 | ○主食・主菜・副菜や一汁三菜を理解する。<br>□味のバランス・彩り・費用・旬などを意識する。<br>□相手に合わせた献立要素が存在する。 | ア③<br>エ③ |
| 3<br>・<br>4 | | ○相手に合わせた食事とはどのような食事であるかを考える。<br>先生への夕食の献立を作ろう<br>・ジャーマンポテトがいい。<br>・根菜のきんぴらは好きそう。<br>○栄養のバランスを確かめる。<br>・ビタミンが少ない。<br>・たんぱく質がない。<br>○考えた献立を発表する。 | □献立は食べる人に合わせて計画する必要がある。<br>○六つの食品群<br>○五大栄養素<br>□献立については、相手に合わせたり栄養のバランスを考えたりするなどいくつかの構成要素を意識する必要がある。 | イ<br>①② |
| 5<br>・<br>6 | 実践1 | ○調理の計画を立てる。<br>・手順や分担を確認する。<br>・必要なものを確認する。<br>・作り方を確認する。 | □効率の良い調理の計画を立てる必要がある。<br>□献立は食べる人に合わせて計画する必要がある。 | エ② |
| 7 | | ○材料の購入ポイントを知る。<br>・必要な分量だけ買おう。<br>・賞味期限や消費期限に気を付けよう。 | ○食品には生鮮食品と加工食品がある。<br>○食品マークにはそれぞれ意味がある。<br>○賞味期限や消費期限がある。 | エ② |
| 8<br>・<br>9 | | ○計画したものを実習する。 | ○安全な調理の仕方<br>□環境に配慮して調理する。 | ウ① |
| 10 | 評価・改善 | ○実習後の実践１の振り返りを行う。<br>・計画通りに行ったかどうか。<br>・手順の改善点はあるか。<br>・次に実践するときはどうしたらよいか考える。<br>○集団内で評価・改善を行う。<br>○全体で共有する。<br>○学習課題の答えを出す。<br>・体に必要な栄養素が入っている。<br>・食べる人の好みに合わせた献立を考えることも大切だ。 | □栄養のバランスがよく、相手のことを考えた食事の計画を立てることが大切である。 | ア③ |
| | | 家庭における調査活動（献立を作る相手の好みや状況について） | | |
| 11 | 実践2 | ○家庭で実践したいことを考えよう。<br>・どのような手順で作ろうかな。<br>・家族のために○○を作ってみたいな。<br>・好きなものだけではなく、栄養のバランスを考えた献立を作ってみたいな。 | ○栄養のバランスを考えた献立の改善と工夫 | イ③ |
| | | 家庭における実践活動 | | |

(6)　視点に迫る手だて

ア　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

本題材で中心となる生活に係る見方・考え方について、【表１】のような整理を行い、特に大切にしたい視点が「健康」であると捉えた。そこで、児童が健康と食の関連について「健康」という視点で思考を深めていけるように、「栄養のバランスがよい食事とはどのようなものだろうか」という題材を通した学習課題を立て、見方・考え方を働かせるような発問を意識して授業を進める。（視点１－(2)）

【表１　本題材の指導内容と、主に働かせたい生活の営みに係る見方・考え方との関わり】

| 視点 / 指導内容 | 協力・協働 | 健康・快適・安全 | 生活文化の継承・創造 | 持続可能な社会の構築 |
|---|---|---|---|---|
| 内容Ｂ(1)イ | | ○ | | |
| 内容Ｂ(2)イ | | ○ | | |
| 内容Ｂ(3)ア(ｳ)<br>イ | ○ | ○ | ○ | ○ |

イ　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

問題解決的な学習において、題材の終末で課題を解決した後に、再度自己の課題を見直し、課題解決ができるように、学習過程の中に実践の場を２回計画し、１回目の実践を踏まえて、考えを見直し、実践についての改善ができる場を設定する。（視点２－(1)）

また、題材の終末において、これまでの学習を踏まえ、児童が設定した課題を解決していく中で、課題の解決に行き詰まりを感じたり、考えにずれを感じたりすることがある。そこで、振り返りの時間を使って、児童が対話を通して、多様的かつ多角的な考えを基に計画を見直したり、新たな解決方法を考えたりといった学び方に関する自己調整を図りながら学習に取り組んでいけるような場を設定していく。（視点２－(2)）

(7)　本時（４/11 時間）

ア　ねらい

・　米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった１食分の献立について考え、自分なりに工夫した献立を作成している。（生活を創意工夫する能力）

イ　展開

| | 児童の学習活動<br>○教師の発問　・予想される児童の反応 | ●支援　□評価　★概念的知識<br>視点に迫る手だてとの関連 |
|---|---|---|
| 導入 | １　前回の活動の振り返りをする。<br>○献立を作成する時のポイントはどんなものがあったか思い出してみよう。<br>・栄養のバランスを考える。<br>・一汁三菜になっているか考える。<br>・予算を考える。<br>・色どりをよくする。<br><br>２　今日の学習課題を知る。<br>**学習課題：先生の夕食の献立はどのようなものがよいだろう。** | ●献立については、相手に合わせたり栄養のバランスを考えたりするなどいくつかの構成要素を意識する必要があることを黒板の掲示物で確認させる。 |

| | | |
|---|---|---|
| 展開 | 3　考えた献立を発表する。<br>・野菜が多い献立にしました。<br>・ごはんとみそ汁に合う食事がいいと考えました。<br>・仕事でエネルギーが必要なので、じゃがいもを使った献立を立てました。<br>・コンビーフハッシュとキャベツと昆布のサラダを選びました。<br>理由は、疲れているので肉を食べてほしいと思ったからです。サラダをつけて、栄養のバランスをよくしました。<br><br>4　考えた献立についてアドバイスをし合う。<br>・好みに合わせて作れていてよい。<br>・六つの食品群を見て、○○を加えた方がより栄養バランスがよくなる。 | ●食べてもらう人の好みや願いを考えて計画をするように伝える。<br><br>□米飯とみそ汁を中心とした三つのグループの食品のそろった１食分の献立について考え、自分なりに工夫した献立を立てている。<br>【生活を創意工夫する能力】<br>★献立は食べる人に合わせて計画する必要があることを理解しているか。<br>対話的な学習による児童の考えの変化を示す工夫　（視点２－(2)）<br><br>●献立のポイントを振り返ってアドバイスをするように言葉掛けをする。 |
| まとめ | 5　学習の振り返りをする。<br>・好みに合わせて献立を考える必要があることが分かった。<br>・よりよい生活をするためには、栄養のバランスの良い献立が必要だと分かった。<br>・好みや栄養のバランス以外にも必要なことはあるのか調べたい。 | ●本時の活動について振り返りを行い、大切だったことは何か想起させて書かせるように言葉掛けをする。<br>自己調整を図りながら学習に取り組ませる工夫<br>（視点２－(2)） |

(8)　教材について

本検証授業では、献立を考える際に使用する料理カード【資料１】を作成し、児童がカードを使用して献立を考えるようにした。料理は、児童が実践１の調理実習の中でできるように、学習内で扱える食材のみで作ることができるように厳選した。

【資料１　献立を考える際に使用する料理カード】

表面

裏面

**チーズ入り春巻**

**【材料】**

**○春巻きの皮　　○しめじ**
**○グリーンアスパラガス**
**○玉ねぎ　　○チーズ**
**○ウィンナー　　○油**

**ジャーマンポテト**

**【材料】**

**○じゃがいも　　○玉ねぎ**
**○ベーコン　　○パセリ**
**○油**

(9)　検証授業の振り返り

ア　成果

(ｱ)　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

生活の営みに係る見方・考え方を働かせる場の設定（視点１－（２））

児童による全体での意見交流の場では、児童が互いの意見を聞き合うことで、考えを練り上げることができるようにした。また、児童の発言の際に、指導者から理由を問うことで、見方・考え方を働かせた発言を引き出すことができた。

児童が献立を考える際に、献立作りのポイントを板書しておくことで、意識することができ、考える視点に有効的だった。また、ワークシートには六つの食品群を確認するための表を献立の横に設定したことで、常に栄養のバランスを確認しながら、献立づくりの活動をすることができた。

(ｲ)　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

学習過程における評価・改善の工夫(視点２－(１))

問題解決型の学習において、題材の終末で課題を解決した後に、再度自己の課題を見直し、そこで見付けた新たな課題を解決できるように、学習過程の中に実践の場を２回計画した。１回目の実践を踏まえて、考えを見直し、実践についての改善ができる場を設定したことで、実習で課題となってしまった点を振り返り、２回目の実践に生かそうとしている児童が多く見られた。

また、２回目の実践では、学習シートの振り返りの場面や、家庭からのコメントから、１回目の実践の課題を踏まえてよりよい方法を選択し、課題解決を進めている児童が多くいたことを読み取ることができた。また、この活動は、家庭と連携して学習することができ、家族の一員として主体的に実践する意欲につなげることができた。

児童が調整を図りながら学習を進めていく手だての工夫（視点２－（２））

自分の考えた献立をグループで発表する場面を設けたことで、グループ内でアドバイスを受け、そのアドバイスにより、児童が自分の献立を調整している姿が見られた。

また、題材の終末において、自分のことやグループのこと、そして学級全体のことについて、児童が対話を通して、栄養のバランスなどを基に計画を見直したり、新たな解決方法を考えたりといった振り返りの時間をとることが、学び方に関する自己調整につながった。

イ　課題

児童が調整を図りながら学習を進めていく手だての工夫（視点２－（２））

児童による全体での意見交流の場で、児童が互いの意見を聞き合うことで考えを練り上げることができた一方で、グループでの対話や全体で発表する場の時間配分を考える必要があった。特に、児童はグループ内での対話の中で、自己調整を行っているところが見受けられたため、全体よりもグループでの対話を重視して授業を計画していく必要があると考える。また、グループで対話をした後、他者からの意見を自分なりに整理し、考える時間（自己調整を図る時間）を保障することで、より児童の考えが引き出せたと考えられるため、個人の時間をしっかりと確保していく必要があると考える。

## ２　検証授業②

(1)　題材名　第５学年「食べて元気！ご飯とみそ汁」

(2)　指導内容

内容Ｂ(1)　食事の役割　ア　食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方

内容Ｂ(2)　調理の基礎　ア　(ｱ)材料の分量や手順、調理計画

(ｲ)用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い

(ｳ)材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け

(ｵ)伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方

内容Ｂ(3)　栄養を考えた食事　ア　(ｱ)体に必要な栄養素の種類と働き

(3)　題材の目標

【内容Ｂ(1)】食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解する。
（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｂ(2)】調理の基礎的な知識及び技能を身に付ける。
（生活の技能）（家庭生活についての知識・理解）

【内容Ｂ(3)】体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解する。
（家庭生活についての知識・理解）

(4)　題材の評価規準

| | ア　家庭生活への関心・意欲・態度 | イ　生活を創意工夫する能力 | ウ　生活の技能 | エ　家庭生活についての知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| B(1) | ①日常とっている食事に関心をもち、食事の役割を考えて、食事を大切にしようとしている。 | | | ①食事の役割や日常の食事の大切さを理解している。 |
| B(2) | ②伝統的な日常食である米飯及びみそ汁をすすんで調理しようとしている。 | ①おいしい米飯及びみそ汁の調理の仕方について考えたり、工夫したりしている。 | ①米飯及びみそ汁を適切に調理することができる。 | ②米飯とみそ汁が日本の伝統的な日常食であることや、適切な調理の仕方を理解している。 |
| B(3) | ③食事に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに関心をもっている。 | | | ③食品に含まれる五大栄養素の種類と体内での働きを理解している。<br>④栄養を考えて食事をとることの大切さについて理解している。 |

(5)　題材の指導計画（全 10 時間）

| 時 | | ○児童の学習活動<br>・予想される児童の反応 | ○基礎的・基本的知識及び技能<br>□概念的な理解 | 評価規準 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 設定 | ○毎日の食事を振り返る。<br>・ご飯とみそ汁といった組み合わせが多い。<br>○日本の伝統的な食事の組み合わせを知る。<br>○学習課題を考える。 | ○食事は、主食と汁物やおかずを組み合わせて食べる。<br>○日本の伝統的な日常食はご飯とみそ汁である。 | ア① |

| 時 | | ○児童の学習活動<br>・予想される児童の反応 | ○基礎的・基本的知識及び技能<br>□概念的な理解 | 評価<br>規準 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 計画 | **学習課題：食事をとるときに大切なことは何だろうか。**<br>○学習計画を立てる。<br>・ご飯やみそ汁をおいしく作るコツを調べたい。<br>・ご飯の炊き方を知りたい。<br>○解決方法を考える。<br>・家の人に聞いてみる。<br>・実際に作ってみる。 | | |
| 2 | | ○なぜ食べるのかを考える。<br>・おなかがすくから。<br>・体を動かすエネルギーが必要だから。<br>○栄養素の働きを知る。<br>・体には、五大栄養素が必要だ。<br>・いろいろなものを食べないと、五大栄養素がとれない。 | ○命を保ったり、活動したり、成長したりするために必要な成分を栄養素という。<br>○五大栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン）<br>○体の中で消化・吸収された栄養素は、三つの働きをする。（エネルギーになる、体をつくる、体の調子を整える） | ア③<br>エ③<br>④ |
| | | 家庭における調査活動（ご飯をおいしく炊くコツとおいしいみそ汁を作るコツ、栄養をとるために工夫していることなど） | | |
| 3 | | ○みそ汁について調べ、発表する。<br>・みその種類にこだわっていた。<br>・みそ汁のおいしさは「だし」である。<br>○だしの必要性について知る。<br>・家でもだしをとって作っていた。<br>○煮干しでだしをとる方法を知る。 | ○みその種類と地方それぞれの特徴<br>○煮干しだしのとり方<br>○実を煮る順番がある。<br>○みそは溶いて入れる。<br>○みそを入れた後にみそ汁を煮立たせない。 | イ① |
| 4 | | ○ご飯について調べたことを発表する。<br>・水加減が大切である。<br>・最初に吸水させる時間が必要である。<br>○ご飯を炊くときに気を付けることを知る。<br>・鍋で炊くときは火加減に気を付ける。 | ○米一合は 180ml（150ｇ）<br>○米に水を吸水させる。<br>○夏と冬では給水時間が異なる。<br>○ご飯を炊くときの水の量と火加減<br>○炊きあがった後、蒸らす。<br>○炊いている間は、鍋の蓋を開けない。<br>□米と水と熱があれば、ご飯は炊ける。 | イ① |
| 5 | | ○調理計画を立てる。<br>・水の分量や野菜の切り方を班のみんなで確認しよう。<br>・分担すると手際よく調理ができるよ。<br>・おいしく作るコツを計画の中に書き込もう。<br>・身支度にも気を付けよう。 | ○調理計画の立て方<br>○安全で衛生的な調理の仕方 | エ② |
| 6<br>・<br>7 | 実践1 | ○ご飯とみそ汁を調理する。<br>・ご飯を炊くときの火加減に気を付けて作ろう。<br>・包丁を安全に使って野菜を切ろう。<br>・みそを入れた後は煮立たせないようにしよう。<br>・野菜の大きさに気を付けよう。<br>・水の量に気を付けて調理しよう。<br>・分担したから、早く片付けができた。 | ○安全な調理の仕方<br>○米飯の調理<br>○みそ汁の調理<br>□環境に配慮して調理する。 | ア②<br>ウ① |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 評価・改善 | ○実習後の実践１の振り返りを行う。<br>・計画通りに実践できたかどうか。<br>・改善した方がよいことはあるか。<br>・次の調理はどうしたらよいか。<br>○集団内で評価を行う。<br>○全体で共有する。 | □野菜の切り方の工夫<br>□ご飯を焦がさないために火加減を調節する。 | エ② |
| 9（本時） | | ○家庭で実践する計画を立てよう。<br>・炊飯器でご飯を炊くときのコツは何だろう。<br>・家族が好みのみそ汁の実を入れておいしいみそ汁を作ろう。<br>・失敗から考えた改善すべきことは何だろう。 | ○家族の好みや地域の特徴を生かしたご飯やみそ汁の作り方を計画する。 | エ①<br>イ① |
| | | 家庭における実践活動（家でご飯を炊いたりみそ汁を作ったりする） | | |
| 10 | 実践２ | ○家庭で実践したことを報告する。<br>・家族の好みの固さでご飯が炊けた。<br>・だしをとってみそ汁を作ったら家族においしいと言ってもらえた。<br>○学習課題の答えを出す。<br>・食事は栄養のバランスを考えてとる必要があり、おいしさや食べる人の好みを考えて調理する。 | □主食、おかず、汁物を組み合わせて食事を計画するときに、家族の好みや地域の特徴を生かしながら、栄養のバランスを考えるとよい。 | ア① |

(6)　視点に迫る手だて

ア　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

本題材では、第５学年の発達段階を考慮すると、身に付けさせたい基礎的・基本的な知識及び技能が多くなると考える。そこで、確実な習得を目指すために、学習過程内において身に付ける知識及び技能の明確化と概念化を事前に計画した。問題解決的な学習を取り入れ、「課題を設定、計画、実践、評価・改善」という一連の学習過程を行うことで、この身に付けた知識及び技能が活用できる機会を増やし、実生活に生かすことができるようにしていく。また、身に付けた知識及び技能を概念化することで、実践の状況に応じて学んだことを調整して活用していくことができるようにする。（視点１-(1)）

また、本題材で中心となる生活に係る見方・考え方について、【表２】のような整理を行い、特に大切にしたい視点が「健康」であると捉え、児童が課題についての解決策等を考える際に、「健康」を意識した思考ができるように、発問等を工夫した。（視点１－(2)）

【表２　本題材の指導内容と、主に働かせたい「見方・考え方」との関わり】

| 視点 / 指導内容 | 協力・協働 | 健康・快適・安全 | 生活文化の継承・創造 | 持続可能な社会の構築 |
|---|---|---|---|---|
| 内容Ｂ(1)ア | | ○ | | |
| 内容Ｂ(2)ア | ○ | ○ | | ○ |
| 内容Ｂ(3)ア(ｱ) | | ○ | ○ | |

イ　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

題材の導入時に毎日の食事を振り返ることで、食事をとるときに大切なことがあることに気付かせ、日常生活の問題として捉えることができる活動を取り入れた。「食事とは、単に食べればよいのではないこと」から学習課題につなげ、問題解決的な学習を行う中で自

分の生活と比較して振り返り、自己の食事についての課題の状況を把握しやすいようにしていく。把握した課題については、児童が対話を通して、多様的かつ多角的な考えを基に計画を見直したり、新たな解決方法を考えたりといった学び方に関する自己調整を図りながら学習に取り組み、解決に向かうことができるようにしていく。(視点２－(2))

また、題材の終末で課題解決の後に再度自己の課題を見直し、新たな課題を考える時間を設ける。そこで見付けた課題を解決できるように、学習過程の中に実践の場を２回計画し、１回目の実践を踏まえて、実践についての改善ができる場を設定する。(視点２－(1))

(7)　本時（９/10 時間）

ア　ねらい

・　米飯及びみそ汁の調理で身に付けたことを生かして、家庭で実践する計画を立てる。（生活を創意工夫する能力）

イ　展開

| | 児童の学習活動<br>○教師の発問　・予想される児童の反応 | ●支援　□評価　★概念的知識<br>視点に迫る手だてとの関連 |
|---|---|---|
| 導入 | １　前時までの活動の振り返りをする。<br>○栄養について学んだことや、調理実習について振り返ったことを思い出そう。<br>・食べることで、体に必要な栄養素をとっている。<br>・ご飯とみそ汁をおいしく作るときのコツがたくさんあった。<br>・家族に作ってあげたいと思った。 | ●前時までの振り返りの中で、次は家庭での実践をしたいと考えていたことを想起できるようにこれまでの学習シートを確認するように促す。 |
| 展開 | ２　今日のめあてを考える。<br>○次にみなさんは、どのような学習をすれば、課題の解決ができそうですか。<br>・実習で改善すべきことがあったので、もう一度作ってみたい。<br>・学習で学んだことを家でも実践し、家族に食事を作りたい。 | |
| | めあて：家族へのご飯とみそ汁作りの計画を立てよう | |
| | ３　家族の好みや栄養バランスを意識したご飯とみそ汁作りを考える。<br>・調理実習では、ご飯を炊くときの水加減を間違えたので、次はきちんと水の量を計画に書いておく。 | ●実習後に行った振り返りで気付いた改善すべきことを黒板の掲示で確認したり、家庭での調査で分かったこと書いた学習シートを確認したりして計画に入れることを伝える。<br>□米飯及びみそ汁の調理で身に付けたことを生かして、家庭で実践する計画を立てているか。【生活を創意工夫する能力】 |
| | ４　考えた調理計画を班で発表する。<br>・みそ汁の実を、おばあちゃんが好きな油揚げにした。栄養を考えて、他の実は、わかめとじゃがいもにした。<br>・ご飯の炊きあがり時間を考えて、炊き始める時間を考えて計画した。 | ●友達の発表を聞くだけでなく、計画のよいところを伝えたり、もっとよくなるための助言をしたりするとよいことを伝える。<br>★好みだけでなく、栄養バランスや安全な調理手順を考えた調理計画になっているか。<br>対話的な学習による児童の考えの変化を示す工夫<br>(視点２－(2)) |
| | ５　全体で発表する。<br>○家族へのご飯とみそ汁作りの計画がどのようになったのか、発表しましょう。<br>・ご飯を炊くときの水の量を正確に量るように気を付けてご飯を炊くように計画した。 | |

| | | |
|---|---|---|
| まとめ | 6　学習の振り返りをする。<br>・調理実習で身に付けたご飯の炊き方やみそ汁の作り方を生かして、家族へ作るご飯とみそ汁の調理計画を立てることができた。<br>・日本の伝統的な食事である、ご飯とみそ汁が作れるようになったので、今週末に家族に作ってあげたい。 | ●自分の生活と比較しての振り返りをワークシートに記入させる。<br>評価・改善を実生活に生かす工夫<br>（視点２－(1)） |

(8)　検証授業の振り返り

ア　成果

(ｱ)　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

学習過程内において身に付ける知識及び技能の明確化と概念化（視点１－(1)）

本題材における習得すべき知識及び技能を明確にして指導を計画することで、児童は必要な知識及び技能を身に付けることができた。また、学習が進むにつれて概念化していく知識についても整理をして指導することで、実生活において実践する際の工夫とすることができ、児童のやってみようとする意欲が見られた。また、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得を行うことが、学び方に関する自己調整を働かせることができることが分かった。

(ｲ)　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

評価・改善を実生活に生かす工夫（視点２－(1)）

問題解決的な学習を行う中で自分の生活と比較して振り返ることをし、自己の食事についての課題の状況を把握しやすいようにすることで、児童は次に学習したいことや解決すべきことを見付けて学習に臨むことができた。題材の終末では、学習過程の中で実践する場を２回設け、１回目の実践から見いだされた成果や改善点を考えることで、２回目の実践の場である家庭での実践に生かそうとする児童が多く見られた。

また、考えや活動を振り返らせるために、学習シートに記述できる箇所を設けたり、ポートフォリオとして記述内容をまとめたりした。このことにより、前時までの考えと比較をしたり、資料等を基に再考したりする等の姿を見ることができ、児童が自ら自己評価を行うきっかけを作ることができた。

対話的な学習による児童の考えの変化を示す工夫（視点２－(2)）

１回目の実践から見えた改善点を話し合うことで、他者の考えに触れ、新たな実践の計画に書き加えるといった自己調整を図りながら学習に向かう姿が見られた。

イ　課題

学習過程内において身に付ける知識及び技能の明確化と概念化を計画（視点１－(1)）

評価・改善を実生活に生かす工夫（視点２－(1)）

児童が２回目の実践に向けての評価・改善を行う際に、本題材における児童が習得すべき知識及び技能が確実に習得できていないと、自己調整が働かず、新たな計画を立てたり、解決方法を考えたりすることが不十分になることが分かった。

また、知識及び技能を明確化するだけでは確実な習得まで至らなかった児童もみられた。上記にあるように、知識及び技能の確実な習得は、児童の学習調整に係る重要な点となるため、今後、学習した内容を視覚化することで、児童が授業の途中で学習内容を振り返ることができるなどの更なる手だてを考えることが今後の課題と考える。

## Ⅶ　研究の成果

本研究では、研究主題を「日常生活の中から問題を見いだして、学んだことを実生活に生かそうとする児童の育成」とし、家庭科の学習課程の中で問題解決的な学習に取り組み、評価・改善に重点を置いた学習を計画することが、学んだことを実生活に生かそうとする児童を育成することに有効であるという研究仮説の下、研究を進めた。

本研究における成果は、以下のとおりである。

### １　日常生活の中から問題を見いだし、学んだことを実生活に生かす力を育む視点

本研究では、問題解決的な学習における学習課題を疑問形で立てるように工夫した。これは、題材全体を通して、児童が「なぜだろう」、「どうしたらよいのだろう」と考える課題にすることで、日常生活の中から問題を見いだし、最後まで児童が主体的に課題解決に臨めるようにするためである。また、指導者が児童の発言に対して「なぜ」「どうして」と疑問や理由を問い返すことで、課題を自らが解決していくような意識が生まれる授業展開になるように留意した。このことは、児童が「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせて課題を解決していくことにつながった。例えば、検証授業①においては、栄養のバランスについて意識をしながら解決方法を考えた児童が多く見られた。これまでの経験等に基づく思い付きの解決方法ではなく、健康という見方・考え方を働かせた結果であると考える。

また、研究では、学習課題を設定したり、授業において問い返しをしたりするために、事前に生活の営みに係る見方・考え方を整理しておくことや、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識及び技能について明確にしておくことが有効であった。特に、学習過程内で身に付ける知識及び技能の概念化を事前に計画しておいたことは、授業における児童の反応と、本時で児童に身に付けさせたい知識とのつながりについて、授業中に即座に指導者が整理をしてねらいに沿った問い返しを行うことに生かすことができた。また、事前に児童の思考を予測し、発問について計画・準備をすることができるので、よりねらいを的確に捉えた問題解決的な学習の流れを行うことができた。

これらの概念化の習得に焦点をおいたことは、児童が主体的に学んだことを実践したいと思うきっかけとなり、個々を取り巻く状況に合わせて学んだ手法を変化させ、家庭で実践していくことにつながったと考える。また、食生活の題材に絞って検証授業を行ったことで、段階的な知識及び習得について題材内で行うものと２年間にわたって行うものとを意識して計画すべきであることが分かった。

### ２　自己の課題の状況を把握し、よりよい方法を決定する力を育む視点

検証授業では、実践の場を２回計画した。１回目の実践から見えた改善点について、話合いや自己調整を行うことで自己の課題の状況を把握し、解決する方法を見いだして新たな実践の計画を立てることができた。食生活の題材においては、１回目の実践から調理の手順や技能の改善点が多く見つかった。改善点を他者と話し合いよりよい方法を見付けることで、２回目の実践の場である家庭で調理する際の計画が１回目の実践計画より具体的になった。実体験を通して既に実習を見通しているため、足りないと思うことを再考したり、よりよい生活に向けて新たな取組を考えたりした実践としてつなげることができた。

学びの調整については、知識及び技能の習得が不十分な児童は、個人による自己調整が難

しい場面がみられたが、対話の場を設けることで、他者から知識を補うことができたり、学びを調整する上でのアドバイスを受けたりする場面が多く見られた。このことから、自己調整においては、個人の時間の保障のみでなく、対話の場の設定等、他者と状況や意見を交流する必要があることが分かった。また、現在の学びや児童の思考について、学習シートを活用し、ポートフォリオの形で記録しておくことで、自己調整を行う際に既習事項を確認しながら調整する姿も多く見られた。これらのことから、対話や学習記録等を活用しながら、振り返りに重点を置き、自分の生活と比べたり課題解決に向けて再度考えを構築したりする活動を繰り返し行うことで、自己の学習を調整しながら学習を進めていくという学習活動の連続性を生み出すことが分かった。

## Ⅷ　研究の課題

### １　調整を図りながら学習を進めていく手だてについて

児童が対話の中で自己調整を図る場面が多く見られたため、対話の場の時間配分を調整する必要があった。一方で、他者からの意見を受けた上で、個人で整理して考える思考の場を保障することでより児童の考えを引き出すことができるとも考えられるため、個の時間の確保も必要であった。一単位時間において、対話の時間と個の時間のバランスを考え、児童が課題解決に向かう道筋を作ることができるように、時間配分を計画的に行うことが大切であることが分かった。

また、検証授業では、児童が知識の習得が不十分であると学習の調整に至らないことが分かった。その場合の指導上の留意点として、他者との対話を通して他者の意見を聞き、学習を調整することができるとしていたが、知識不足のため、対話自体を続けることができず、自分の考えの修正まで至らない様子も見られた。基礎的・基本的な知識及び技能は、児童の記憶だけでは評価が曖昧になり、改善策がよいものにならない様子も見られたため、その単元内の学習で確実に習得出来るように学習内容の視覚化などを図り、いつでも児童が学習内容を確認できる等の手だてをとっていく必要がある。

さらに、対話の場を設けること以外に、話し合うテーマに沿って、どのような深まりがあるのか指導者が事前に予測しておくことや、児童の対話における技能面の配慮が必要であることが分かった。話合いのテーマと視点の明確化及び反応例の予想を行うとともに、話合いの手順や対話のモデルを示すことで、対話における技能面を補うことができ、児童の思考がより深まるのではないかと考える。

### ２　食生活以外の学びについて

本研究は、食生活の２年間の学びについて特化しているが、衣生活や住生活などの他分野や中学校での学習内容については言及できていないため、研究を続けていく必要がある。

さらに、今回は２回の実践を行うことで、児童の評価・改善の質を高める研究を主に行ったが、題材によっては、数回の実践が困難な場合もある。その際に、１回の実践において、評価・改善の質を高めるためにはどのような手だてが必要であるのか、また、各家庭における実践の場をどのように設定するかなど、題材ごとの学習過程の計画を作成していく必要がある。

# 平成 31 年度(2019 年度)　教育研究員名簿

## 小学校・家庭

| 学　　校　　名 | 職　名 | 氏　　名 |
|---|---|---|
| 江 東 区 立 浅 間 竪 川 小 学 校 | 主任教諭 | ◎木　元　千　春 |
| 豊 島 区 立 南 池 袋 小 学 校 | 教　　諭 | 富　岡　奈津美 |
| 三　鷹　市　立　井　口　小　学　校 | 主任教諭 | 生　沼　早　紀 |

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　西尾　英里子

# 平成 31 年度(2019 年度)
# 教育研究員研究報告書
# 小学校・家庭

令和２年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　　（０３）５３２０―６８４９